

2024 年東京開催 しんくみ新現役交流会

2024 年東京開催 しんくみ新現役交流会が 9 月 18 日(水)京橋の全国信用組合会館 7 階講堂にて開催されました。参加信組 8 組合／企業は 14 社、うち 6 社がリアル面談、8 社がオンライン面談を実施しました。参加新現役は 59 名でうち自宅からのオンライン参加者が 17 名、会場参加者が 42 名、面談回数は 91 回でした。リアル参加の 6 社は「1 社が新潟県、5 社が長野県からの参加」で、「6 社は多忙な中、この一日のために遠方から／旅費も自費負担で参加」されました。途上と終了後、各社長と同行の方々のご意見をお聞きしたところ、みなさん口々に「良かった!」「やはりリアルで話をする事の大事さを再確認した」とおっしゃっていたのが印象的でした。また「マッチングできるかどうかは、その時次第。一度／日におおくの方々＝新現役と意見交換ができる機会は、無い」と、新現役交流会の本質を語っておられたのが印象的でした。あとでお聞きしたことですが「上京時は時間を合わせて上京、帰りは各々が帰途につかれました」が、いかに忙しい中での参加だったか、一方でこの会の意義／意味をご理解いただいていたことに当方もその熱意に感銘を受けました。

N 信組の担当者からは「昨年でその良さを実感したから」とのお話をいただきました。

また関東経済産業局から 2 名、日本政策金融公庫から 2 名、大東京信用組合から 1 名の見学者があり、みなさまブースに入って熱心にお話に聞き入られました。

全信組連 山口信用組合部長より、しんくみ新現役交流会のマッチング率は累計で 67% のマッチング率の高い実績があり、地域企業の問題解決に大きく貢献していることと今後への期待が述べられました。新現役交流会サポート 保田代表からは、新現役交流会が 4000 社の実績がある伴走支援実現のための会であることなど意義と趣旨や守秘義務の遵守、新現役は社長にあえる貴重な機会を活かし遠慮なく忌憚ない意見交換をすることの大切さなど諸注意が話されました。

社長から口々に伺ったことは、「自社の課題に対し多数の人から違う切り口でアドバイスをもらう機会は初めて」「このような機会はとても貴重」「多くの気づきがあった」ということでした。「東南アジアに進出して 10 年余りになるが、現地の事情に詳しい人に出会えた。地方では、こうした出会いが難しく、来て本当に良かった。」という声も聞かれました。遠方から来られた社長が「わざわざきて良かった」と話されているのを聞くと、普段なかなか長時間を使って自社の課題に向かい合い、本音で対話する機会の持ちにくい社長にこうした場の貴重さ、大切さを実感していただいて、私も本当に良かったと思いました。

新現役のお話で特に印象に残ったのは、87 歳のカクシャクたる新現役が後継者育成について「現社長と同じことを後継者にさせることは難しい。できないことは、できる人を周り

につけること」と含蓄のある話をされていたことでした。

ある信組の方からは「当信組だけでは、このような仕組み、仕掛け組織を実施することは難しい」というお話も伺いました。全信組連という組織力があって全国規模の新現役交流会が運営でき、幅広いキャリアをもつ新現役が多様な企業の課題に向かい合えるのだと改めて思いました。

全信組連のスタッフの細かな心遣いが随所に行き届いていたお蔭で、リアル面談とオンライン面談が同時並行する複雑な運営も大きな問題なくスムーズに進行し盛会に終わりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

(文=野澤)



全信組連 山口信用組合部長 挨拶



新現役交流会サポート 保田代表 挨拶



オンライン面談風景



リアル面談風景